

夏秋トマトにおける近紫外線除去フィルムのアザミウマ類に対する防除効果

福島県農業試験場病理昆虫部
平成15年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

野菜—トマト—病害虫防除
分類コード 03—04—23000000

2 担当者

佐々木正剛・中村 淳

3 要旨

場内ビニルハウス(4.5×9m)において、試験区としてUVネット区(近紫外線除去フィルム+開口部の1mm目合い防虫ネット被覆)、ネット区(一般農業用ポリ塩化ビニルフィルム+開口部の1mm目合い防虫ネット被覆)、慣行区(一般農業用ポリ塩化ビニルフィルム)を設置し、近紫外線除去フィルムのアザミウマ類に対する防除効果を検討した。

- (1) 青色粘着トラップによる誘殺数は、UVネット区で37頭、ネット区で813頭、慣行区で4766頭であり、UVネット区の誘殺数は他の区に比べ著しく少なかった。
- (2) UVネット区では、アザミウマ類の寄生数は試験期間を通して花房で0頭、複葉でも0.1頭以下であり、アザミウマ類の寄生はほとんどみられなかった。
- (3) 主な寄生種は、ヒラズハナアザミウマとミカンキイロアザミウマであり、寄生数は7月中旬までは花房に多く、その後は複葉で多い傾向がみられた。
- (4) 白ぶくれ症の発生果率は、UVネット区で2%、ネット区で21%、慣行区で48%であり、UVネット区の発生果数は他の区に比べ明らかに少なかった。一方、ネット区の発生果率は慣行区より低いものの、防虫ネット被覆だけでは白ぶくれ症の発生を抑えきれなかった。
- (5) 以上のことから、夏秋トマトにおける近紫外線除去フィルムの使用は、アザミウマ類成虫のハウス内への飛び込みを阻害する効果が高く、アザミウマ類に対し有効な防除方法であることが明らかになった。

4 その他の資料等

なし